

社会貢献型インターンシップ 第9回「クラダシチャレンジ」in 京都府京丹波町



Agenda

#01

クラダシチャレンジとは

#02

7日間のスケジュール

#03

記録(SNS発信)

#04

参加者の声

#05

事後報告会

#06

総括



#1. クラダシチャレンジとは

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地方農家での農業支援を通し、地域課題やフードロスなどの社会課題について考える、社会貢献型インターンシップです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生の派遣により町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。



#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

“もったいない”を価値へ



クラダシ基金： 地方創生

人手不足で収穫できない農家に学生をインターンシップとして送ることで、一次産品の未収穫廃棄品をレスキュー。収穫できた農作物をKURADASHIで販売し、支援金が増えることで人手不足による未収穫によるロスにさらに減らすことができるエコシステム。
クラダシチャレンジは、鹿児島県の種子島と与輪島、香川県的小豆島と高知県北川村、鹿児島県の西之表市、北海道の仁木町にて計8回実施。

得られるメリット

- 地方労働力の提供
クラダシチャレンジ（インターン）
により学生派遣
- 学生の食育や
フードロスの削減
フードロス削減に意欲の高い学生の
食育・体験
- 収穫商品の再流通
学生の収穫した商品をKURADASHIで
流通（農家の収益増加）



クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金です。

社会貢献型ショッピングサイト
「KURADASHI」上における一般消費者からの
寄付先の1つです。

地域経済の活性化と社会発展に寄与する
ための社会貢献型インターンシップ「クラダ
シチャレンジ」に掛かる、旅費、滞在費、食
費等は全てクラダシ基金より拠出していま
す。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>



①未収穫作物の収穫による新たな収益の獲得

地方では、農業人口の高齢化・労働者人口の不足によって、未収穫作物の発生が増加しています。京丹波町で生産されている黒枝豆の収穫は、一さやずつ手作業で行われるため、時間と人手が必要です。収穫作業の必要な時期に学生を派遣することで、**未収穫による一次製品の食品ロスが解決される**と同時に、農家さんの新たな収益を獲得することができます。



②地方の関係人口の増加に貢献、若者を呼び地域振興に

地元の方から見たら当たり前の風景でも、都心にいる学生から見ればとても価値のあるものに見え、**地元の商品や土地に誇り**を持つことができます。そして、SNS等を利用して地方の魅力を発信することで、**地方の関係人口の増加を図ることができます**。



③地元の特産品の購買促進に

京丹波町には、黒枝豆の他にも、丹波栗・松茸などの特産品に加え、虹や紅葉など様々な見所があります。そのような素晴らしい魅力を、活動を通してPRすることで、**購買促進・観光客の増加**を図ることができます。



社会貢献型インターンシップ 第9回「クラダシチャレンジ」in 京都府京丹波町

- 活動内容:
 - ①京都府京丹波町の農家にて黒枝豆の収穫
 - ②販売用黒枝豆の選別・箱詰め作業
 - ③SNS等を利用した地方の魅力発信
 - ④社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」での黒枝豆の販売
- 開催期間:2021年10月19日～10月24日
- 参加人数:6人
- 実施企業:株式会社クラダシ (クラダシ基金にて運営)



【京丹波町  よ】



京丹波町
きょうたんばちょう

(地域商社京丹波HPより)

京都府の中部に位置する町で、人口は13,338人(2021年調べ)です。

京の都の天皇の元へ献上する食材を生産する町として栄え、歴史ある食の町として知られています。
黒大豆、小豆、丹波栗、松茸などが特産品です。



2021年10月8日に株式会社クラダシは、京丹波町、積水ハウス株式会社と3者にて、「京丹波町における食品ロス削減及び特産品のPRIに向けた連携協定」を締結いたしました。

それぞれが抱える課題の解決を目的に、3者が持つリソースを最大限に活かした取り組みを実施してまいります。

▼連携協定について詳しくはこちら

<https://corp.kuradashi.jp/news/21-10-08/>



#2. 6日間のスケジュール

7日間のスケジュール① (Day1-3)

<Day 1>

9:15 東京駅集合、京都へ出発

14:00 ホテル到着

15:45 新田農園の工場と圃場見学

16:10 スーパーで買い物してホテルへ戻る

18:00 夕食

21:00 積水ハウスの社員さんと交流

<Day 2>

8:00 朝食

9:00 黒枝豆仕分け・袋詰め・新田農園見学

12:00 昼食

13:00 意見交換会

15:00 黒枝豆仕分け・袋詰め・

メッセージ作成・箱詰め

17:00 サイクリング説明

18:00 夕食

20:00 自由時間

<Day 3>

8:00 朝食

9:00 黒枝豆仕分け・袋詰め・新田農園見学

12:00 昼食

13:00 意見交換会

15:00 黒枝豆仕分け・袋詰め・

メッセージ作成・箱詰め

17:00 サイクリング説明

18:00 夕食

20:00 自由時間



7日間のスケジュール① (Day3-6)

<Day 4>

8:00 朝食
9:00 サイクリング開始
10:00 玉雲寺訪問
10:30 琴滝
12:30 旧質美小学校にて昼食
14:45 丹波ワイナリー訪問
15:30 サイクリング終了
17:00 帰宅
18:00 夕食
18:40 ディスカッション
21:00 自由時間

<Day 5>

8:00 朝食
9:00 黒枝豆枝切えい
10:00 黒枝豆選別
11:00 黒枝豆試食
黒枝豆選別
12:00 昼食
13:00 メッセージカード作成
箱詰め作業
選別
脱さや
18:00 夕食
23:00 ディスカッション

<Day 6>

8:00 朝食
10:00 京都発
14:00 東京着



#3. 記録・SNS発信

▶黒枝豆収穫

黒枝豆の収穫は、思っていたよりも力仕事が多いと感じました。切った枝豆の房を運ぶのも、なかなか重労働でした。また、天候が不安定で、雨が降ったりやんだりする中、選別の作業をするのも、寒さもあって大変だったように感じます。しかし、農家の方々は普段、台風の中でも構わずにこれらの作業を行うと聞いて、驚きました。



収穫作業中に何度も虹を見ました。二重に掛かった虹は初めて見るメンバーも多く、驚きましたが、京丹波町ではよくある風景なのだそうです。京丹波町はまさに「虹の町」だと思いました。



▶仕分け・袋詰め・メッセージ作成

収穫した豆や手書きのカードが実際にお客様の手に渡ることを考えたら気が引き締まったし、美味しいと思ってくれたらいいなと思いました！メッセージカードを書く際には「京丹波」という言葉を繰り返し使うことで、消費者の意識に残るような工夫をしたり、京丹波の良さや訪問に繋がるようなメッセージを書きました。



フードロスの問題が農業において根強いということも感じました。店舗に並んでいる黒枝豆はどれも非常にきれいな状態ですが、そのような出荷できる状態のものは全体でも40%程度でしかなく、残りの60%は出荷できないということでした。このことは単純に「もったいない」と感じてしまいました。

もちろん、出荷できないものも完全に捨てられるわけではなく、正月の黒豆になるのだが、それでも残りの60%をそのまま出荷できないのは少し名残惜しい。おそらく日本の「美品信仰」が非常に強いということが寄与していると感じました。

形が悪くても、多少色が悪くても、美味しいものは美味しいというのが伝えられる世の中になったらよいと感じました。



▶黒枝豆収穫

農作業の過酷さはテクノロジーによって解決できるのではないかと考えていましたが、簡単ではないことが分かりました。

1つ1つの野菜果物の個別性が非常に高いため、汎用的な機械を作ることが難しいからだそうです。

例えば黒枝豆では、収穫用の機械はありますが、枝が太いと機械の針金が切れてしまうなどの弊害があるようでした。



人の手で30秒かかっていた袋詰め作業を機械だと1秒で、脱さや作業も一瞬で終わったのを見て、やはり機械でできることは機械に任せたいという気持ちを身にしみて感ほした。

しかし、新田農園さん(お世話になった農家さん)のように大きな会社でないと手が出ないような機械がたくさんあり、例えば、工場にある6つの機械だけで約5000万円もするのだそうです。農業を快適に行うためにも自治体は補助金などをどれだけ出せるかを含め、農業の在り方そのものも課題になってくると感じました。



▶「KURADASHI」にて黒枝豆を販売



京都丹波産「令和3年産黒枝豆 さや取り」200g×15袋

👉 メーカー協賛価格 **4,980円**(税込)

1袋あたり332円 (参考価格9,720円)

🕒 販売期限 2021/10/19 23:59 まで

👉 支援金額 **240円**
支援先: クラダン基金
※メーカー協賛価格に含まれます



HOT
京都丹波産「令和3年産黒枝豆 さや取り」200g×15袋



#クラダシチャレンジ in 京丹波町

- ※ご購入後のキャンセルは原則お受けできません。(キャンセル及び返品・交換についてはこちら)
- ※商品情報(内容量・原材料・原産国など)は、メーカーの都合等により変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ※10月20日～26日に出荷予定です。収穫状況によりずれ込む場合がございます。
- ※代引き不可商品です。
- ※佐川急便でお届けいたします。

SOLD OUT

👤 お気に入り追加 🔗 シェアする

社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」にて収穫した黒枝豆を販売しました。

計96セットを販売し、
一つ一つの商品に、参加学生による
手書きのメッセージを付け、ご購入頂いた方に感謝
の気持ちをお伝えしました。



▶意見交換会

町長をはじめとした京丹波町役場の方々、積水ハウスの方々と京丹波町の課題や魅力について、意見交換を行いました。

少しでも京丹波町を良くしていきたいと思う気持ちと、役所ならではの变革していくことの難しさの間で葛藤があることも知りました。京丹波町を思う気持ちは皆あるはずなのに、役所だけでは停滞してしまうもどかしさを感じました。企業の協力や、京丹波町の魅力を知った私たちが、その魅力を周りに伝えていくことで、少しずつでも良いから京丹波町の良さを発信できれば良いと思います。

京丹波の町長や役場の方との対話で、町の課題を認識し、これから何ができるかを考えました。

やはり最大の課題は少子高齢化の歯止めだと感じました。現在京丹波は48%の住人が65歳以上という超高齢化社会になっており、子供の数や大学で府外に行き戻ってくる人の割合は割という深刻な状況です。Uターンへの応援を行うとともに、出生率も増やしていけるような町づくりがとても大切になっていくのだと考えました。そのためには京丹波をもっと知ってもらおう今回のインターンやツアーなどでもできるといいのではないかと感じます。京丹波をより良い元気な町にするためには何ができるのかこれからも考えていきたいです。



▶サイクリング・京丹波町観光



@琴滝
マイナスイオンに癒されました！



@玉雲寺
和尚さんがこの地の歴史を話してくださり、阿吽の呼吸の由来や、様々な花の種類を知ることができました。



本当に空が広くて、東京で見る空より0倍は大きいと思うし、気になる臭いもなく、ゴミもほぼ落ちていませんでした。この町に来て当たり前感じていましたが、これだけ空が大きくて道が綺麗で木々も豊富にあることは大きな財産だと思います。この豊かな自然をもっと広めたいし、写真や動画で家族に素晴らしさを伝えようと思います。誰かの心の拠り所になれる場所が京丹波町だと感じました。



SNS発信について



“もったいない”を価値へ



※参加者のクラチャレに関する SNS投稿の一例



Liked by

クラダシチャレンジで京丹波に行きました。
枝豆、ワイン、日本酒、京丹波のお弁当などなど、本当に美味しいものをたくさん頂きました！
京丹波の方々はとても優しく楽しくも、実りある時間を過ごすことができました。本当にありがとうございます！！

#クラダシチャレンジ
#クラチャレ
#黒枝豆
#新田農園
#京丹波町
#地方創生
#積水ハウス
#トリップベース
#京都観光
#京都旅行

November 14 · See Translation



IN京丹波町
クラダシ
チャレンジ

2021年10月19日～10月25日



Liked by

京丹波町で黒枝豆収穫してきた🍷

黒枝豆を乾かすと黒豆になるって勉強になったし(枝豆と大豆の関係と一緒に)
一緒に行った5人とはめちゃくちゃ仲良くなったし最高の1週間だった！！

#京丹波町 #京丹波 #クラチャレ #クラダシチャレンジ #フードロス削減 #地域創生 #京都 #枝豆 #黒枝豆

November 14 · See Translation



Liked by

2021.10.19～24 @京丹波

インターンで行った京都府京丹波町
初めて農作業をして、採れたての黒枝豆も食べられて、貴重な経験ができました。4日目のサイクリングも、空気が澄んで、自然を体感できました。
食べ物も美味しいし、お酒も美味しいし、楽しい5泊6日だった！

#京都府京丹波町
#クラチャレ
#クラダシチャレンジ
#黒枝豆

November 14 · See Translation

#クラダシチャレンジ in 京丹波町



#4. 参加者の声

#4. 参加者の声 ①

中西的心が暖かい町、No1

最初は農業体験としか思っていなかったクラダシチャレンジでしたが、とても暖かい最高の体験になったと思います。

農業、サイクリングなどなど色々な体験をしましたが、その中でも一番印象に残ったのは京丹波町の優しさです。旅行等で色々な田舎町に行ったことがありますが、ここまで人が優しい町は初めてでした。本当にあったかい町で、京丹波のファンになりました！！！！

また、目標だった「農家のリアルを体験する」というのも無事達成できました！！「農作業の大変さ」「収穫の楽しさ」を感じることができました。これを1年栽培するとやりがいは半場ではないんだろうと感じました。



【一橋大学4年 中西由英】



私が日常から出来ること

【フードロス削減・地方創生】が今回のテーマではありましたが、このスケールの大きい課題に対して「結局自分は何が出来るのだろう」とずっと考えていました。

農作業や地元の方との交流、グループワーク・意見交換会を通して、課題解決はすぐ出来るものでは無かったり、現実的に可能なかも分からないと感じる部分があり、もどかしさを感じました。クラチャレを終えた今、「私が手に取る・口にする食べ物は、どこから来たのか（農家さん・地域）に興味関心を持つことは今日から出来る」というのが私が出した自分なりの答えです。行動に移さなければ何も始まらないけれど、京丹波町のみならず、その食べ物のルーツに想いを寄せることも大事な一歩だと思います。そう改めて気づくことができた今回のクラチャレ・京丹波町に感謝します！！！！



#4. 参加者の声 ③

京丹波町の熱い想い！京丹波創生に向けて。

僕が今回一番印象に残ったのは、町役場の方々の京丹波を盛り上げたいという熱い想いです。今回クラチャレに参加する前、京丹波町のことはほとんど知りませんでした。しかし、農作業、観光、意見交換会などを通して、京丹波が大好きになりました！

その理由として、役場の方々の影響もあり、自分に何ができるのかを真剣に考え、当事者意識を持てたことが大きかったと思います。このような、京丹波が好きという人をどれだけ増やせるかは、京丹波創生においてとても重要なことだと思います。なので次は自分が京丹波の良さを発信していき、京丹波が好きな人を増やしていき、少しでも恩返しができるかなと思いました。



【京都産業大学2年 志尾陽章】



#4. 参加者の声 ④

忘れられない町、京丹波町

このインターンに参加するまで、京丹波町のことも知らなかったし、ただ農作業に励むのかと思っていたけれど、6日間を通して本当に色々な経験ができたと感じました。

もちろん私が参加するきっかけになったフードロス問題についても、改めて考えるきっかけになったけれど、それ以上に京丹波町自体の魅力を全身で体感できたように思います。豊かな自然を楽しめるサイクリング、美味しい食べ物、そして何より京丹波町の人たちがとっても温かかったのが心に残りました。

役場の方が「京丹波町のことを忘れないで」と言っていましたが、こんな素敵な町を忘れられる訳が無いです。必ずまた京丹波町に遊びに行きます。最高の体験をさせていただき、本当にありがとうございました！



【東京都立大学3年 岡島みのり】



#4. 参加者の声 ⑤

来たら絶対トリコになる町、京丹波

農作業はおそらく小学生以来で非常に楽しく、かつ貴重な経験ができたと感じます！

収穫作業や新田農家さんとのお話しを通して、農家として生計を立てることの楽しさや難しさを感じました。

また観光では大好きな自然を五感で味わって、サイクリングで爽快な1日を過ごせました。来たら絶対、みんな好きになる町だと思います。

クラダシチャレンジで京丹波に来て良かったです！！ありがとうございました。



#4. 参加者の声 ⑥

大好きな町と仲間に出逢えた1週間

「フードロスを減らしたい」と応募したクラダシチャレンジだったけど、終わった時には京丹波町も、黒枝豆も、一緒に行った6人のことも現地でお世話になった方々も大好きになっていました。実際の収穫を通して、手作業の大変さや選別で廃棄される量の多さ(黒豆になるけど)も知り、交流会では町の課題や解決策について意見交換し、役場の方々が考え、努力しているにも関わらず町の外から来る人と住んでいる人の意見のバランスが取れず上手くいっていないことも知ることができました。

1週間足らずの滞在で、京丹波町の食、虹、自然、人の温かみを知ることができて、また行きたいと思います。また、実際規格外といわれているものを食べ比べても遜色ないことが分かったので、今度からお品やキズもの、地域の人が作ったものを買う事で地域創生に取り組み、フードロスを減らしていきたいです。



#5. 事後報告会

第10回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 香川県小豆島町と合同で、参加者による事後報告会を行いました。

■日時：2021年11月19日 15:00-17:00

■場所：クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者：「クラダシチャレンジ in 京都府京丹波町」参加学生
「クラダシチャレンジ in 香川県小豆島町」参加学生
京丹波町役場職員の方々
小豆島役場職員の方々
積水ハウス 岡本さん
小豆島ふるさと村 佐倉さん
クラダシ社員

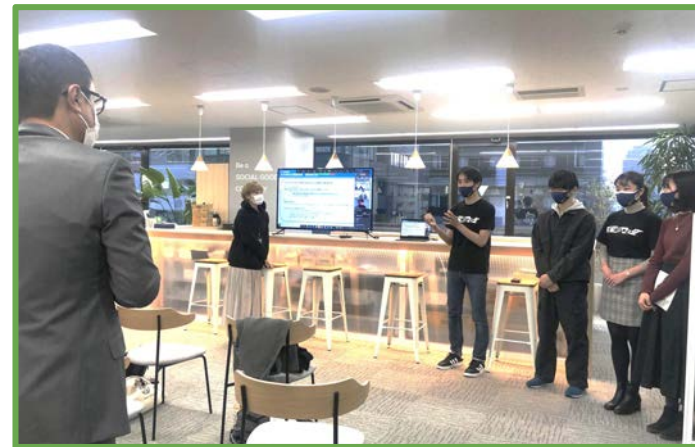


事後報告会の開催目的 : 参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した 課題への解決策を提案する

学生が見出した課題 : 京丹波町の少子高齢化

少子高齢化によって人口が減ると ...

- ・町の存続が危うい
- ・町の魅力である食の力が失われる可能性がある
 - ・耕作放棄地の増加
 - ・農業の継続が難しくなる
- ・町の経済活動が停滞する



京丹波町の少子高齢化に対して学生が提案した解決策:

関西圏在住の「コロナ禍で遠出はしたくないが気軽に自然を楽しみたい」という日帰り観光客をターゲットに
京丹波町の関係人口を増やす

関係人口を増やすために...

1. 「虹の町、京丹波」というキャッチフレーズを打ち出す
→京丹波町は高確率で虹を見ることができるのが魅力
2. 若い世代に届きやすいよう、SNSにてキャッチフレーズと共に、
①京丹波の自然(虹や紅葉)②食(黒豆、松茸、ジビエ)の情報を拡散。
→美味しいものといえば京丹波という認識を作る

比較的若い世代を中心に「自然が素敵で食べ物が美味しい所といえば京丹波町」という認識を作り、
関西近郊に住む日帰り観光客を呼び込む事で、関係人口の増加を図る。



#6. 総括

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長CEO 関藤 竜也

事業内容

社会貢献型ショッピングサイト「KURADHASHI」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、京丹波町以外の自治体でも支援を引き続き行なって参ります。

ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

